

「マクロ経済学Ⅰ」試験解答用紙

(担当者名：蓮見 亮)

採点欄

2015年7月17日(金)9時30分～10時30分施行	学 部	学 科	年 組	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	
・試験時間60分、解答用紙全2ページ ・問題用紙別 ・持ち込み不可 ・電子機器は電卓のみ使用可	学 生 証 番 号				
	氏 名				

問1.

問1

1	○	2	○	3	○	4	○	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>
5	○	6	×	7	○	8	×	
9	×	10	×	11	×	12	○	
13	×	14	○	15	○	16	×	
17	×	18	×	19	×	20	×	
21	○	22	○	23	×	24	○	
25	○							

問2.

問2

1	c	2	d	3	c	4	d	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>

問3.

問3

- | | | |
|------|--|---|
| I. | 一定期間において、一国内で生産される財・サービスの生産の付加価値の合計
(「一定期間において、一国内で生産される全ての最終的な財・サービスの市場価値」でも可) | <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> |
| II. | GDPには余暇の量や質、環境の良さ、国民の健康の価値が反映されない点
で、社会の経済的福祉の尺度として不十分な面がある。 | |
| III. | | |

(1)	107	兆円	(2)	9	兆円	(3)	529	兆円
(4)	492.0	兆円	(5)	0.4	%	(6)	0.8	%

IV. **実質GDP** のほうが優れている

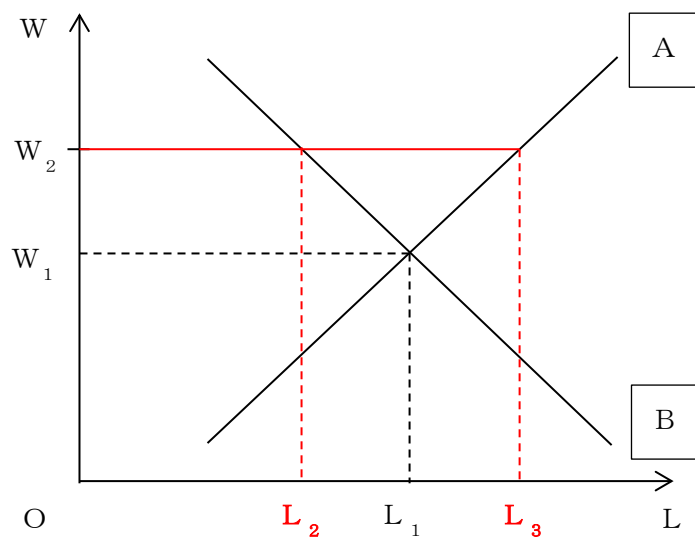
理由 **過去と比較して現在の名目 GDP が増加しているも、物価が同率で上昇していれば、
現在が過去に比べてより豊かになったとはいえないから。**

問4. (1)

問4

①	家計	②	供給	③	企業
④	需要				

(2)



**雇用される労働者は、図中における L_2 、
失業者数は $L_3 - L_2$ である。**

(以下余白)